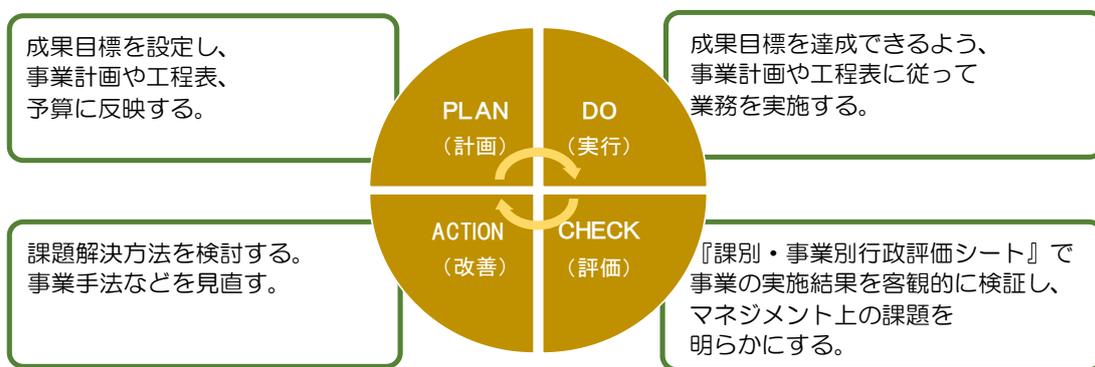


## 4 予算におけるその他の取り組み

### (1)新公会計制度を活用した予算編成について

町田市は、2012年4月から市区町村としては全国で初めて、日常の会計処理の中で複式簿記を行う新公会計制度を導入しました。2017年8月に公表した『平成28年度（2016年度）町田市課別・事業別行政評価シート』で明らかになった様々なマネジメント上の課題を解決できるように、2018年度当初予算に反映させました。

新公会計制度による行政サービスの見える化と、予算編成を含むPDCAサイクルの実施により、市民サービスの向上を図ります。



『平成28年度（2016年度）町田市課別・事業別行政評価シート』で明らかになった課題を、2018年度当初予算に反映した件数・金額は以下のとおりです。

区分	予算に反映させた取組	件数	予算反映額
1	成果向上に向けた取組強化	56件	846,036千円
2	行政運営の見直しによる減	9件	310,957千円
3	歳入確保	16件	213,218千円
	予算反映額 合計	81件	1,370,211千円

予算に反映させた具体的な取り組みについて、3つの区分ごとに紹介します。

区分	担当課	2016年度末の事業の課題	成果指標	2016年度成果	2018年度成果目標	見直し項目	予算編成で工夫した内容	2017年度予算額(千円)	2018年度予算額(千円)	予算反映額(千円)
1	学校教育部 教育センター	学校ネットワークの構築から10年が経過し、設置以来更改していないネットワーク機器の老朽化が顕著となっています。次期5カ年計画「教育の情報化推進事業」を効果的に進めるためには、ネットワーク環境などのICT基盤を並行して整備していく必要があります。	普通教室での無線同時接続可能台数	小学校:5台 中学校:5台 (無線アクセスポイント利用)	小学校:1,401台 中学校:489台	LTE回線の利用	LTE回線を導入します。ネットワークの新規構築は、多額のインシャルコスト、ランニングコストを要するため、既に全国で張り巡らされている携帯電話のLTE網を活用します。	1,384	23,160	21,776
2	経済観光部 産業観光課	民間と共同所有する施設「町田ターミナルプラザ」について、運営に係る委託料や負担金等の削減を共同所有者と共に検討し、行政収支差額を改善する必要があります。				観光バス等発車管理委託料	1階バスターミナルにおける観光バス等発車管理業務について、使用料の徴収方法を見直し、現場業務の効率化を図りました。その結果、事務管理や当日発着管理に係る人員をそれぞれ1人ずつ減らし、経費を削減しました。	7,810	4,724	3,086
3	文化スポーツ 振興部 国際版画美術館	展覧会企画内容の精査を行い、観覧者の増加につながる魅力ある企画を検討するとともに、助成金の確実な獲得が求められます。				助成金の獲得	企画に合致する民間の助成金の情報収集を積極的に行い、「タカシマヤ文化基金団体助成金(800千円)、三菱UFJ信託地域文化財団助成金(500千円)、「豪日交流基金助成金(850千円)の3つの助成金を新たな財源として確保しました。	3,200	4,850	1,650

## (2)インセンティブ予算付与状況

インセンティブ予算とは、各部の創意工夫による経費節減や財源確保などの取り組みを評価し、別枠で配分する予算で、2007年度予算から導入したものです。2016年度予算からは、「ふるさと納税促進策各部提案制度」を創設し、各部の積極的な創意工夫を活かして、ふるさと納税の増加につながる返礼品を提案する促進策に対しても、インセンティブ予算を付与しています。

2018年度予算は、インセンティブ予算制度の評価基準の見直しによる対象の拡充や、インセンティブ付与額の増額など見直しを行ったことにより、11件（前年度2件）の経費節減等の取り組みと2件（前年度1件）のふるさと納税促進策に対してインセンティブ予算を付与しました。

内訳は次のとおりです。

取り組みの種類	付与件数	効果額	付与額
経費節減	5件	9,416千円	10,598千円
財源確保	3件	2,173千円	6,511千円
未利用地の活用	3件	83,000千円	41,500千円
ふるさと納税促進策	2件	—	1,270千円
合計	13件	94,589千円	59,879千円

上記の他に2016年度から引き続き各部に付与している5,267千円と合わせて、総額65,146千円のインセンティブ予算を付与しました。また、経費節減及び財源確保の取り組みについては、付与額を2018年度から3年間のなかで予算計上できるよう制度を見直しました。

### ■新たにインセンティブ予算を付与した主な取り組み

#### <経費節減の取り組み>

○ビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR）による生活援護課の時間外の削減（地域福祉部）

他自治体等との比較の視点をもって具体的な改善につなげながら、業務の流れや、やり方を抜本的に革新するビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR）により生活保護業務を根本的に見直し、効率的で効果的な生活保護実施体制を構築した結果、時間外勤務時間数を削減しました。

◎経費節減額 6,157 千円 ◆インセンティブ予算計上額 2,000 千円  
（インセンティブ予算付与額 6,157 千円）

#### <財源確保の取り組み>

○多言語対応パネルの設置（財務部）

市庁舎 1 階ワンストップロビーに多言語対応パネルを設置し、企業からの広告収入などによる収入を確保しました。

◎財源確保額 2,161 千円 ◆インセンティブ予算計上額 6,483 千円  
（インセンティブ予算付与額 6,483 千円）

＜未利用地を活用する取り組み＞

○市有財産の活用（市民部・道路部）

未利用であった事業用地について、民間に売却しました。

◎財源確保額 83,000 千円 ◆インセンティブ予算計上額 41,500 千円  
（インセンティブ予算付与額 41,500 千円）

＜ふるさと納税促進策＞

○ふるさと納税の新たな使い道を追加（経済観光部・文化スポーツ振興部）

町田市のふるさと納税の魅力をさらに高め、町田市の魅力を市外にも幅広くPRすることを目的として、ふるさと納税を増加させる新たな使い道を追加しました。

具体的には、新たな寄附の使い道として、中心市街地の魅力向上を図る「まちなかで親子がゆっくり過ごせる空間をつくる！」や、市内学校等を対象にホームタウンチーム「キャノンイーグルス」の練習見学や競技体験等を行う「トップアスリートと子どもたちをスポーツでつなぐ！」を追加しました。

◎目標寄附金額 2,540 千円 ◆インセンティブ予算計上額 1,270 千円  
（インセンティブ予算付与額 1,270 千円）

■インセンティブ予算の付与状況

単位：千円

部名	インセンティブ付与額				2018年度 予算計上額
	2016年度分	2017年度分	2018年度分	合計	
政策経営部	0	0	1,690	1,690	1,690
財務部	0	0	6,531	6,531	6,531
市民部	0	0	7,500	7,500	7,500
文化スポーツ振興部	0	0	500	500	500
地域福祉部	0	0	6,157	6,157	2,000
保健所	707	0	0	707	707
子ども生活部	0	0	1,758	1,758	1,355
経済観光部	0	0	770	770	770
道路部	0	2,760	34,000	36,760	36,760
都市づくり部	0	1,800	973	2,773	1,800
計	707	4,560	59,879	65,146	59,613

■インセンティブ予算の主な充当事業

・鶴川駅前バス案内表示作成委託料	500 千円（文化スポーツ振興部）
・デジタルベビースケール購入費	106 千円（保健所）
・保育士就職相談会開催事業費	1,355 千円（子ども生活部）
・街路樹整備の推進にかかる工事費	5,500 千円（道路部）
・歩道整備の推進にかかる用地取得費	31,260 千円（道路部）

### (3)まちだ未来づくり基金（ふるさと納税）の使い道

町田市ではふるさと納税の使い道について、町田市の基本計画である「まちだ未来づくりプラン」に基づいた下記①から④の使い道を指定することが可能です。これらの使い道を指定してご寄附いただいたふるさと納税は、「まちだ未来づくり基金」に積み立てております。

- |   |
|---|
| ①将来を担う人が育つまちをつくる（子ども・子育て・教育・生涯学習など）           |
| ②安心して生活できるまちをつくる（高齢者・障がい者・健康・医療・防犯・防災・地域振興など） |
| ③賑わいのあるまちをつくる（産業振興・文化スポーツ振興・観光振興など）           |
| ④暮らしやすいまちをつくる（交通・住環境・環境など）                    |

2018年度予算においては、2016年度に上記の使い道として積み立てたふるさと納税について、「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画である「町田市5カ年計画17-21」の推進に資する下記の事業に活用いたします。

使い道	①将来を担う人が育つまちをつくる				
充当事業	小学校教育情報化推進事業	所管	学校教育部 教育センター	充当額	20,300千円
内容	小学校のICT環境の充実を図り、ICTを使用した効果的な授業を実施するため、タブレット端末やデジタル教科書、プロジェクター等の購入に活用します。				

使い道	②安心して生活できるまちをつくる				
充当事業	安全対策管理事務	所管	防災安全部 市民生活安全課	充当額	2,159千円
内容	セーフティボックス・サルビアについて、新たに防犯及び案内機能を拡充した民間交番として、リニューアルオープンするための費用に活用します。				

使い道	③賑わいのあるまちをつくる				
充当事業	シティプロモーション推進事業	所管	政策経営部 広報課	充当額	450千円
内容	これから先も選ばれ続けるまちを目指すため、地域や市民の「やってみたい」を実現する「まちだ〇ごと大作戦18-20」や、町田市の魅力を市内外に積極的に発信する費用に活用します。				

使い道	④暮らしやすいまちをつくる				
充当事業	地域コミュニティバス運行事業	所管	都市づくり部 交通事業推進課	充当額	902千円
内容	老朽化したコミュニティバス車両の買い替えるための費用に活用します。				

## (4)事務事業の見直し状況

2018年度の予算編成にあたっては、予算編成方針に基づき、「事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直し」「補助金等及び扶助費見直し」「総務事務及び庶務事務見直し」を行いました。

### 1 事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直し <見直し額 △6,742 千円>

2017年度予算編成に引き続き、市の全ての事務事業を対象とした実施根拠の調査を踏まえ、法律・条例等に基づかない事務事業に関して、廃止・縮小も含めた見直しを行いました。

見直しを行った8件のうち、2017年度予算額から100万円以上見直したものは以下のとおりです。

(単位：千円)

項番	事務事業の名称	2018年度 予算額 A	2017年度 予算額 B	見直し額 A-B
①	高齢者指定収集ごみ袋無料配付事業	13,111	17,516	△4,405
②	民有緑地保全事務	1,404	2,538	△1,134

### 2 補助金等及び扶助費見直し <見直し額 △25,933 千円※事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直しとの重複分除く>

2016年度予算編成において、段階的に見直すものとした町田市単独事業の補助金等について、2017年度予算編成に引き続き見直しを行いました。

見直しを行った5件のうち、2017年度予算額から100万円以上見直したものは以下のとおりです。

(単位：千円)

項番	補助金等名称	2018年度 予算額 A	2017年度 予算額 B	見直し額 A-B
①	保育所運営費加算補助金(施設運営調整費分)※	78,807	98,819	△20,012
②	障がい者福祉施設借上費補助金	44,146	47,027	△2,881
③	自主防災組織補助金	15,370	17,410	△2,040
④	職員互助会交付金	16,000	17,000	△1,000

※保育所運営費加算補助金は施設運営調整費分を見直していますが、保育所入所児童の午睡チェックを支援するための監視モニターやベビーセンサー等の機器導入経費を補助する予算(68,000千円)を計上したため、補助金全体の予算額は増加しています。

### 3 総務事務及び庶務事務見直し <見直し額 △28,601 千円>

2017年度予算編成に引き続き、市役所組織を運営するために各部・各課で実施している内部管理事務を重点的に点検し、財務会計システム更改に伴う事務処理の簡略化や庁内部署間での申請・報告等の対象や手法の見直しなど、市役所の生産性の向上に取り組みました。

見直しによる事務の合理化・効率化の効果として2018年度予算に反映した金額は以下のとおりです。

2018年度予算への反映額

時間外勤務手当 △28,601 千円(△9,788 時間相当)

参考資料

当初予算案ができるまで

市は、新しい年度が始まる前にこの先 1 年間に行う事業を検討し、収入と支出の見積りをします。これが「当初予算」といわれるもので、市民の代表である議会の議決を経て成立し、新しい年度が始まるとこの予算をもとに事業が行われます。

「当初予算」の予算編成は以下のような流れで行われ、議会に予算案として提出されます。

※時期は、2018 年度予算編成をもとにしています

